



5月30日(火)、四国西南地域道路整備促進協議会総会が役場本庁で開催されました。愛媛・高知両県10市町村の首長や議長、商工会関係者で構成される同協議会は、『四国8の字ネットワーク』の早期整備完了に向け、両県の垣根を超えて団結した活動を進めています。

総会開催にあたり同協議会会長の清水雅文^{まさふみ}町長は四国西南地域の道路整備状況について触れ、「令和4年度に一部事業化された宿毛内海道路「宿毛新港～一本松」と「御荘～内海」については測量調査をはじめとする事業へ着手していただき、近い将来、四国西南地域においても本格的な高速交通時代が到来するものと確信している」と強い期待を込めて述べました。

また、地球温暖化に伴う気候変動によって全国的に頻発化・激甚化する自然災害などを踏まえ、「豪雨災害や南海トラフ地震などの自然災害に備え、安全・安心な医療アクセスを確保する地域住民の『命の道』として、また、地域ブランドを生かした産業振興や豊かな自然を生かした観光振興など地域経済の活性化を図っていく『地方創生の道』として、早期の道路整備が不可欠である」と述べ、関係機関への道路整備促進に関する要望活動を引き続き進めていくことの必要性を示しました。



新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの対面開催となり、愛媛・高知両県10市町村から47人が出席しました。総会では、令和5年度の事業計画や予算案などについて審議しました。



ふるさとに『命の道』と『地方創生の道』を
令和5年度四国西南地域道路整備促進協議会総会を開催

四国8の字ネットワーク

大規模災害時における交通機能の確保
広域交流や地域間連携の加速化
特産物の高鮮度出荷が可能となり、マーケットを大幅に拡大

